

落ち着いた雰囲気 of 若者向け献血ルーム

2022年、コロナ禍のピークにオープンした中規模複合施設内の献血ルーム。立地は市街地と近郊田園が混在する神奈川県海老名市。近年、献血者の中心は40～60歳代（中高年層）で、若年層の献血者は減少傾向。そこで若年層をターゲットとするべく、ここではWi-Fi環境を整備し、待合室だけでなく採血室でもネットワークへの接続を可能にした。受付は木を基調とし植栽も多くあしらって解放感を演出。採血室は近隣の丹沢の山々を感じるような山脈模様の内装とし、献血者がリラックスして献血できる雰囲気づくりを心がけた。最近の献血ルームでは、無機質な内装ではなく、木質系・カフェ風やアースカラーのインテリアを採用し、落ち着きやくつろぎを重視した内装とすることが多い

献血者は1日当たりおおよそ100人

中規模の献血ルームでは、献血者約100人/日を想定している。1日1床当たり、全血献血15人、成分献血4人が目標【※7】。ベッドは施設が小規模であれば10床以下、中規模なら11～19床、大規模なら20床以上【※8】。将来的なベッド数の増加を見据えて、床面積に余裕をもって計画することも重要。このルーム開所時は14床だが2床増やせる配置とし、2024年4月から16床になった

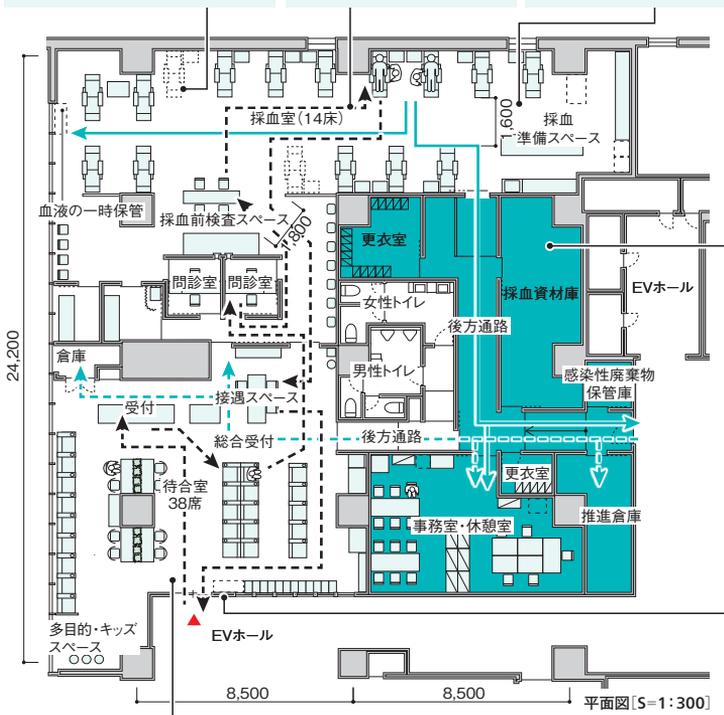
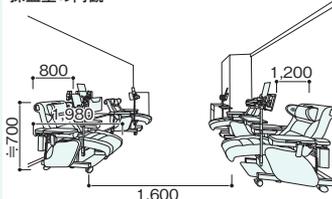
献血者の動線は一筆書きに

献血者の動線は次のとおり。①受付、②待合室、③問診室（健診）、④採血前検査スペース、⑤採血室（採血。全血のみ採血室内待ちあり）、⑥接遇スペース（採血後の事後説明）、⑦待合室（休憩）、⑧退出。受付・接遇スペース（受付・待合室）と採血スペース（問診室・採血室）を一筆書き状に計画するとよい

安全のためゆとりのある通路幅を確保しよう!

採血ベッド1台と採血装置1台に通路を加味した1ユニットの面積は6.6㎡とした。献血する腕によりベッドの左右どちら側に看護師が立つか決まるため、ベッド間は余裕のある寸法に（1,200mm）。採血室は献血者がゆとりをもってすれ違えるよう考慮し一部の通路幅を1,800mmとした。これらの寸法はガイドラインに準じて設定。なお、避難用通路幅は建築基準法に基づき1,600mm

採血室内観

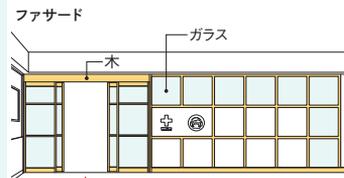


献血者と職員の動線を分離

血液を安全に、かつ衛生的に管理するため、採血職員（看護師）・事務職員・献血者の動線が交わらないように設計する。ここでは、献血者が入るゾーンは上部および左側（南東側）と中央のトイレまでとした。バックヤードは右側（西側）へ集約している。血液は採血室に直結する後方通路から、感染性廃棄物保管庫横の扉を通り、外の専用通路を使用して血液センターへ運ばれる。事務職員の動線は下部（北側）にまとめ【※9】、推進倉庫【※10】は受付と外部出入口付近に設置

開放的にしつつ、献血者どうしのプライバシーにも配慮したい!

待合室の献血者と、来場したばかりの献血者の視線がぶつからないよう、ファサードと座席のレイアウトを検討。これまでは室内を外から隠す傾向が強かったが、献血自体のイメージ向上のため、近年は開放していく動きがある。ここではファサードの一部をガラスにして半開放とした。また、特に混雑しやすい待合室・採血前検査スペース横・採血室では、献血者どうしが対面しないような椅子のレイアウトを考慮する



待合室は落ち着いた雰囲気に

待合室は多目的・キッズスペースを含めて合計38席。採血前後の休憩時に献血者がリラックスできるよう、ソファ席とした【※11】。待合室にはイベントの際などに使用する多目的スペース（キッズスペース）を設けるようガイドラインで定められている。面積はニーズによって変わる

- ← 採血職員動線（血液運搬）
- ← 事務職員動線
- ← 献血者動線
- バックヤード

「海老名献血ルーム」（神奈川県海老名市）2022年竣工、設計：船場、構造：規模：RC造（一部SRC造）・地上10階・塔屋2階（本事例は8階に位置）、敷地面積：約6,200㎡、延床面積：約26,200㎡、床面積：500.28㎡、来所人数：95.2人/日（2024年4月～2025年1月実績）、職員：16.2人/日【※7】献血には全血献血（200ml・400ml）・成分献血（血小板成分献血・血漿成分献血）の2種類がある。全血献血は血液中のすべての成分を献血するもので、所要時間は60分程度/人。成分献血は血液中の血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、赤血球を再び体内に戻すもので、所要時間は120分程度/人【※8】日本赤十字社のガイドラインで採血スペースに必要な室の種類・面積・数が規定されている【※9】事務室や倉庫は献血室と別フロアにすることもありますが、職員が行き来しやすいよう、なるべく同じフロアとする【※10】推進倉庫には、採血資材以外の献血者に配付する記念品や路上で献血者を呼び込むための立て看板などを収納【※11】待合室の椅子の数はベッド数の3倍程度とする

「宿泊目的に応じた間取りと設備がキモ」

宿泊施設

愛犬家の下野さん
グランピングは初めて。大自然の中で愛犬・ナナと遊ぶのを楽しみにしている



宿泊施設は、客がリラックスして休息できる環境を提供する施設。客室・宴会場・レストランを総合的に備えたシティホテルや旅館、宿泊に特化したビジネスホテルやカプセルホテル「73真」、アウトドア体験を盛り込んだグランピング施設「イラスト」など、さまざまな業態に分類される。ビジネスホテルの場合はシティホテルに比べて客室の比率を高くして経済効果を優先するなど、立地や客層に適した間取りが求められる。また、床面積やフロントの設置有無などについては、各自自治体の旅館業法施行規則で基準が設けられている。

基本的な間取りは、寝室、水廻り、廊下。ベッド廻りに照明のスイッチや固定電話、電源などの機能を集約し、ヘッドボードとナイトテーブルを設けることが多い。開口部は寝室に面して設けることが多いが、近隣建物との開口部の重なりにも注意。

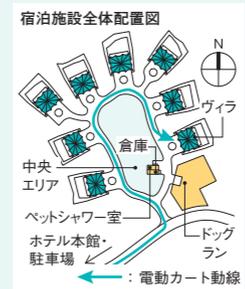
BASIC INFO

愛犬と一緒に宿泊できる宿泊施設

国立公園内にある、既存のリゾート施設に増築したヴィラ型【※1】の宿泊施設。自然環境を生かしたラグジュアリーな雰囲気プライベート空間で、ヴィラ内に寝室と水廻りがひと通り設けられているため、快適に宿泊できる。全8棟のヴィラのうち、5棟は犬の同伴が可能。敷地内に犬用施設も設けている

時計回りでカート移動も快適ね!

宿泊施設全体の規模は約10,000㎡。中央エリアから放射線状に道路を伸ばし、その先に8棟のヴィラを並べている。客は駐車場に自家用車を駐車してからホテル本館で受付し、4人乗り電動カートで各ヴィラへ移動する。敷地内の道路は時計回りの一方通行。道路幅は4,000~5,000mm程度



プライバシーを確保しつつ開放的な間取りに

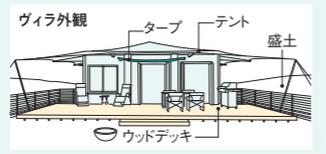
グランピング施設には、自然を楽しむために大きな開口部が必須。ここでは、ほかの客の視線を気にせず過ごせるように、人が通行しない森に面した部分にウッドデッキや庭、開口部を設けている。さらに、ヴィラとヴィラの間隔は15,000~20,000mmと余裕をもたせ、高さ1,500~2,000mmの盛土と高さ500~1,000mmの植栽を設けてプライバシーを十分に確保した。ウッドデッキ部分など、できるだけ視線を遮りたい箇所に、ヤマザクラのような比較的大きい樹種を配置した点がポイント

宿泊以外の体験で付加価値を高める

近年のグランピング施設では、プライベートの露天風呂、サウナ、暖炉、ドッグランなど、宿泊機能以外の設備をオプション的に設けることがある。また、天候不良時の対応として、ワークショップなど屋内で楽しめるアクティビティを用意する施設もある

ウッドデッキと室内をシームレスにつないでいるよ

内部の段差をできるだけなくし、快適な動線確保した。室内と屋外の高低差をなくすと、ウッドデッキをリビングの延長として活用でき、一体感のある空間として演出できる。なお、ウッドデッキは最大4人でバーベキューを楽しめる広さ(33.69㎡)に設計し、上部にタープを備えて雨風にも対応できるようにした



水廻りの設け方はグランピング施設によってさまざま

一般的なグランピング施設には、テントと簡易なベッドのみを設置し、水廻りはホテル本館で補うケースや、テントの近くにサニタリー設備を備えた小規模な建物を設けるケースが多い。ここでは、寝室に水廻り(トイレ・手洗い場・ユニットバス)を併設し、ヴィラ内で宿泊が完結できるようにした

テントや照明でアウトドアらしさを向上

ヴィラの屋根上部には、演出効果と日除けを兼ねたテントを設置し、アウトドアらしい雰囲気を演出。また、自由に設置できるタープやランタン、ランタンを吊るすための金物も用意されているので、客は自分の好みに合わせて空間をアレンジできる

犬と楽しめる設備も充実

グランピング施設は一般的なホテルとは異なり、ベッドと一緒に泊まれるケースも多い。ここでは、犬同伴で宿泊可能なヴィラの家具をほかのヴィラとは一部変えて対応した。建物自体の仕様は変えず、施工コストを抑えている。寝室のデイベッド後方にケージ置場と犬用アメニティ棚を設けたほか、宿泊施設内にドッグラン、ペットシャワー室などを設けた

倉庫は宿泊施設の中央に設置し清掃をスムーズに

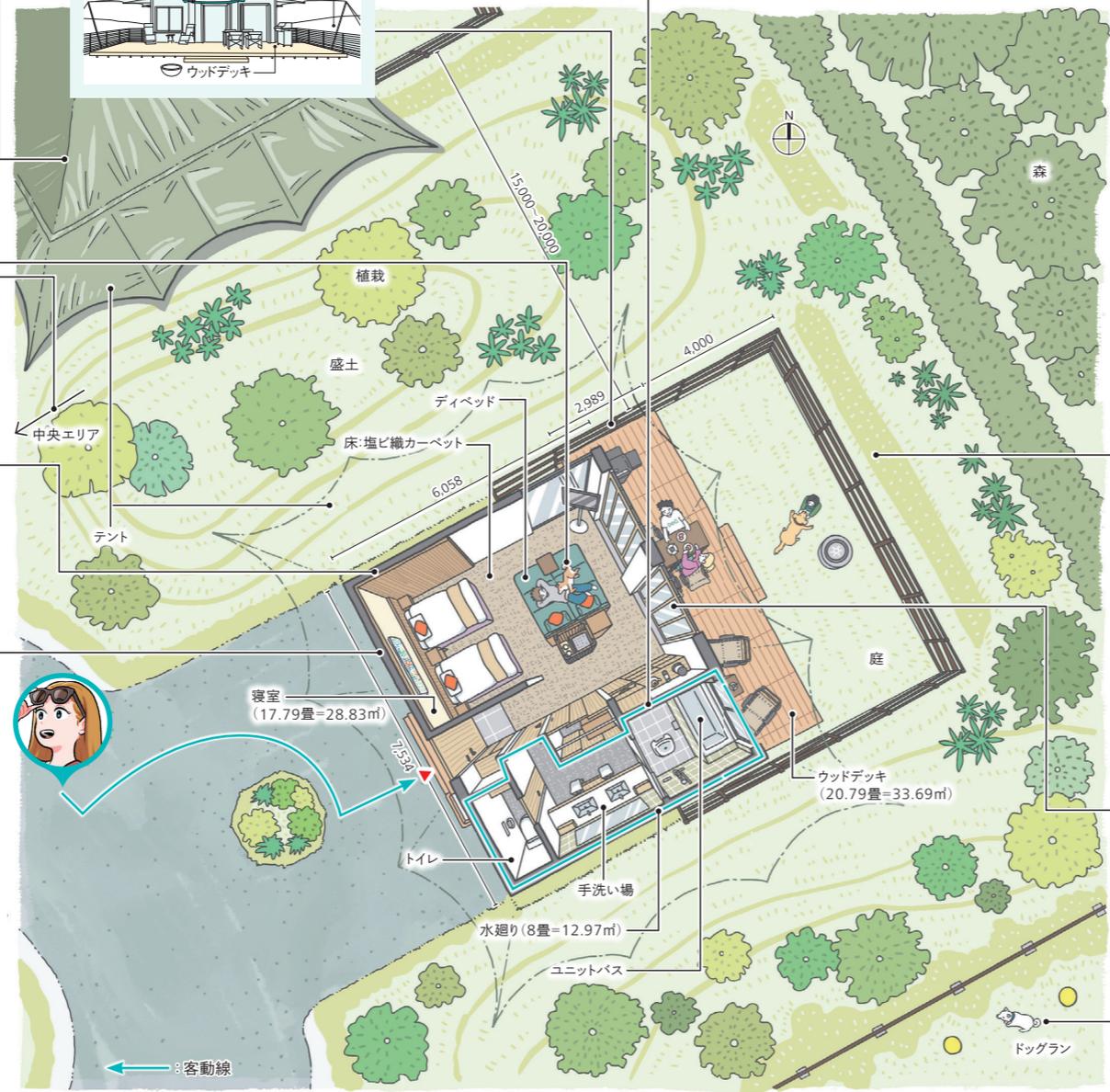
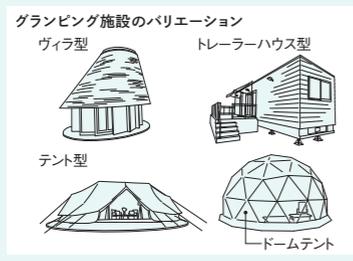
スタッフ用の清掃用具を収納する倉庫は、各ヴィラとの行き来がしやすい場所に計画したい。ここでは中央エリアに倉庫を設置し、客のチェックアウト後にスタッフが清掃を行う運用としている

耐久性とメンテナンス性が高く、ペットにも優しい素材を使用

寝室の床には、意匠性、耐久性、メンテナンス性(清掃性)を考慮して、塩ビ織カーペットを採用。この素材は爪が引っかかりにくいのでペットの体に対しても優しい

グランピング施設ってこんなにバリエーションがあるんだね

グランピング施設は形態によって、適用される法規制が異なる。ヴィラ型は建築物に該当するため、建築基準法に則り、建築確認が必要になる。トレーラーハウス型【※2】は、土地に定着していないことが前提で、建築確認は不要。ただし、居住部分を車両として牽引する扱いとなるため、自動車検査登録(車検)が必要となる。テント型【※3】の場合、土地に定着していなければ建築確認は不要だが、固定されている場合は建築確認が求められる



※2 コンテナのような箱型の居住空間に車台がつくトレーラーハウスを利用したグランピング施設
 ※3 白いドーム型のテントなどの簡易的なグランピング施設

「NEMUフォレストヴィラ」(三重県志摩市) 2022年竣工、設計:船場、構造:規模:S造・平屋、敷地面積:約10,000㎡、延床面積:365.09㎡(ヴィラ・ペットシャワー室・倉庫)、ヴィラ:8戸(41.80㎡/戸)、最大収容人数:4人+犬2頭
 ※1 一戸建てを1棟丸ごと貸し出すタイプのグランピング施設